

アメリカの初等学校の歴史教科書である  
マクガイ著『アメリカ―昔と今』を見ると  
婦人運動のためにその一生をささげた一婦  
人の伝記が書かれてある所がある。さすがは  
男女平等の国であつて面白い。現在アメリカ  
は男女平等の理想を実現している点で世界中  
で最先端を行く国であるが、併し初めからそ  
うであつたわけではない。

現在の様な理想を実現し  
得る迄には多くの努力が  
かくれているのである。

そういう題材を初等学校  
の歴史の教科書にのせて  
いる所に我々は深く感じ  
るものがある。

その梗概を紹介すると、  
ここに挙げられた一婦人  
というのはスーザン・B・アンソニーであつ  
て、――と言つても私自身この初等学校の教  
科書で初めてその名に接したのであるが――  
一八二〇年に生れた。彼女の生れたころは決  
して婦人が現在の様に男子と平等の地位に  
立つていたわけではなかった。その頃婦人は  
もちろん自己の財産権を所有していなかつ  
た。彼女等が自身で得てくる金さえも父や兄  
弟達の処分にまかせられねばならなかつた。

『教育文化』一九四六年十二月（目黒書店）

## アメリカの 婦人運動者

子どもに対する権威は父親のみにあつて母  
親にはなかつた。また二三の職業への道が婦  
人のために開かれてはいたけれども、それと  
て、その職業の中に於ける男女の待遇には非  
常な開きがあつた。もちろん婦人参政権は与  
えられてはいなかつた。

スーザンの家は始め裕福であつたが、後に財  
産を失つたの  
でスーザンは  
教師となつて  
働きはじめた。  
そこで彼女は  
男女の待遇に  
ついての不平  
等を深刻に体  
験した。例え  
ば男の教師が  
一週間に十弗を得ているにかかわらず彼女  
は僅かに二弗半でしかなかつた。どこにおい  
ても常にこういう状態であつた。こういう体  
験が彼女をして婦人運動に没頭せしめるこ  
とになつたのである。八十六歳でその生涯を  
とじるまでに彼女は人々の考えを完全に変  
えさせることに成功した。

こんな風に簡単にスーザンの生涯が説明  
してあつて、その次にこう書いてある。

『どうして彼女はこういう大きな功績をあ  
げたのでしょうか。それは彼女がよしと信ず  
る点を勇敢に述べる勇氣をもつていたから  
です。殆ど報酬のないことに対してもその偉  
大な努力をささげたからです。始めの中は多  
くの人は彼女を嘲笑し、または悪意を持ちま  
した。にもかかわらず彼女の努力が、遂に今  
日のような男女平等を実現にまでもたらし  
たのです。今日私たちのこの明朗な生活は偏  
えに彼女に負うていることを考えなくては  
いけません。』

こういう風を書いてある。今日我々の社会  
は女性の問題に対してもいろいろな改革す  
べき点をもつているけれども、それらの具体  
的な事柄に対して子供に正しい情熱をもた  
せるような教育というものが行われている  
であろうか。これはひとり女性の問題にとど  
まらないのであつて、あらゆる事を具体的に  
子供に考えさせて、その改革への情熱を純  
真な子供にもたせることは大いに必要なの  
ではあるまいか。我々大人の持つてゐる社会  
の困難な問題は子供に対してできるだけ隠  
されねばならぬとする如きことは正しい教  
育のあり方ではないであろう。

(矢口 新)